

## 弾性線維性仮性黄色腫に合併した上部消化管出血に対して、 内視鏡的止血により救命し得た1例

亀 谷 早 紀

杏林大学医学部6年

このたび、私の発表「弾性線維性仮性黄色腫に合併した上部消化管出血に対して、内視鏡的止血により救命し得た1例」について、医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2024東京にて報告し、杏林医学会第14回学生リサーチ賞をいただくことができました。このような榮譽ある賞を受賞できたことを大変嬉しく思うとともに、皆様に心より感謝申し上げます。

本症例は、弾性線維性仮性黄色腫（pseudoxanthoma elasticum, PXE）に合併した上部消化管出血に対し、内視鏡的止血により救命し得た貴重な経験をもとにまとめたものです。PXEはABCC6遺伝子の変異によって弾性線維の変性や断裂、石灰化を起こす常染色体劣性遺伝性疾患です。発生頻度は5万から40万人に1人と大変稀ではありますが、進行性に皮膚や粘膜、網膜、血管、消化管などの、弾性線維に富む臓器や組織が障害されます。本症例では、PXEと診断されていた患者が夕食後に突発的な大量吐血を呈し当院に搬送されました。緊急内視鏡検査の結果、胃穹窿部前壁寄りに露出血管を確認し、クリップ法を用いて止血を行い、患者は速やかに回復しました。本症例のように、PXEにおける消化管出血の報告は少なく、重篤な出血性ショックを引き起こす可能性があるため、消化管出血

の鑑別として考慮することが重要です。また、PXEは多臓器に渡る疾患であり、適切な管理には複合科での定期的な検査が不可欠であることなど、本症例を通じて希少疾患への理解を深める貴重な経験となりました。

今回の発表は、私にとって初めての対面での学会発表であり、当日は非常に緊張しました。しかし、久松理一先生や鍛治諒介先生をはじめとする消化器内科の先生方のご指導のもと、発表準備を重ね、当日を迎えることができました。発表を無事終えたときには、これまでの努力が報われたような達成感があり、大きな自信につながりました。

今回の受賞を励みに、今後も臨床・研究の両面で研鑽を積んでいきたいと考えています。どの診療科でも多くの症例を経験し学びを広げることで、多角的な視点で患者と向き合うことができる医師になりたいと考えています。

最後に、本発表にご指導いただいた先生方、支えてくださった皆様に改めて感謝申し上げます。今後も努力を重ね、さらなる成長を目指して精進してまいります。

【指導教員】医学部消化器内科学 教授 久松理一、医員 鍛治諒介